



ももたろう  
桃太郎

むかしむかし、山の近くの小さい村に、親切で仲のいいおじいさんとおばあさんが住んでいました。毎日、おじいさんは山へ木を切りに、おばあさんは川へ洗濯に行きました。

ある日、おばあさんが川で洗濯をしていると、川上から大きい桃がドンブラコ、ドンブラコ、と流れてきました。「あまい桃なら、こっちへ来い！まずい桃ならあっちへ行け！」とおばあさんが言うと、その大きい桃はおばあさんの方へ流れてきました。おばあさんはその桃を拾って、ヨッコラショ、ドッコイショ、と家に持って帰りました。

その夜、おじいさんとおばあさんが桃をまな板の上のせて切ろうとすると、桃はポカッとわれて、中からかわいくて、元気のいい男の赤ちゃんが「オギャーオギャー」と生まれました。子どものいなかったおじいさんとおばあさんは、とてもうれしくなって、

「桃から生まれたから、桃太郎という名前にしよう！」

と言って、桃太郎を自分達の子供として育てることにしました。桃太郎はたくさん食べて、スクスク育ちました。やがて、力持ちで、強くて、かしこくて、親切な男の子になって、毎日おじいさんとおばあさんの手伝いをするようになりました。

そのころ、鬼ヶ島という島から来た乱暴な鬼達に色々悪い事をされて、村人はとても困っていました。そんなある日、桃太郎がおじいさんとおばあさんに言いました。

「おじいさん、おばあさん、今までぼくを育ててくださって、ありがとうございます。おかげさまで、ぼくはこんなに強くなって、鬼と戦えるようになりました。お礼にぼくが鬼ヶ島に鬼退治に行つてまいります。」

そして、おばあさんに日本で一番おいしいきび団子を作ってもらおうと、それと刀を持って、はちまきをして鬼ヶ島へ出かけました。少し行くと、「ワンワン」と犬に呼び止められました。

「桃太郎さん、桃太郎さん、これからどこへいらっしゃるんですか？」

「鬼ヶ島へ、鬼退治に行くんですよ。」

「それでは、そのきび団子をひとつ下さい。そして、私を桃太郎さんの家来にして、連れて行ってください。」

「どうぞ、どうぞ。きび団子を食べて、一緒に鬼退治をしてください。」

犬はきび団子をもらって、桃太郎の家来になりました。桃太郎と犬が少し行くと、今度は「キャアキャア」と猿に呼び止められました。

「桃太郎さん、桃太郎さん、これからどこへいらっしゃるんですか？」

「鬼ヶ島へ、鬼退治に行くんですよ。」

「それでは、そのきび団子をひとつ下さい。そして、私を桃太郎さんの家来にして、連れて行ってください。」

「どうぞ、どうぞ。きび団子を食べて、一緒に鬼退治をください。」

猿もきび団子をもらって、桃太郎の家来になりました。桃太郎と犬と猿が少し行くと、今度は「ケーンケーン」とキジに呼び止められました。

「桃太郎さん、桃太郎さん、これからどこへいらっしゃるんですか？」

「鬼ヶ島へ、鬼退治に行くんですよ。」

「それでは、そのきび団子をひとつ下さい。そして、私を桃太郎さんの家来にして、連れて行ってください。」

「どうぞ、どうぞ。きび団子を食べて、一緒に鬼退治をください。」

キジもきび団子をもらって、桃太郎の家来になりました。こうして桃太郎は犬、猿、キジを連れて鬼ヶ島に鬼退治に行きました。

桃太郎達が鬼ヶ島に着いてみると、鬼達は桃太郎の村からぬすんだ<sup>たからもの</sup>宝物やごちそうをならべて、<sup>さかも</sup>酒盛りの<sup>さいちゆう</sup>最中でした。桃太郎は犬と猿とキジに

「さあ、みんな、がんばって鬼を退治しよう。それ！」

と<sup>さけ</sup>叫びました。

鬼達は犬におしりにかみつかれて、猿に背中をひっかかれて、キジに空からくちばしでつつかれました。そして桃太郎も、刀をふり回して大あばれしました。その強いこと強いこと！ どうとう鬼の<sup>おやぶん</sup>親分が、

「まいったあ、まいったあ。助けてくれえ！」

と言って、鬼はみんな<sup>ま</sup>負けてしまいました。

桃太郎と犬と猿とキジは、鬼から取り上げた宝物やごちそうを持って、元気よく村に帰って、村人に

「みなさん、どうぞ、このごちそうを召し上がってください。そして、この宝物をお使ください。」

と言いました。おじいさんとおばあさんは、桃太郎の<sup>すがた</sup>元気な<sup>な</sup>姿を見て泣いて<sup>よろこ</sup>喜びました。

それからずっと、おじいさんとおばあさんと桃太郎と村人は、しあわせにくらしました。